

ンテ(子)ハ頭殼内ノ筋肉多分頤ヲ働ス者ナラン其他ハ
前圖ト同シ第七圖ノ解ハ本文ニ見ユ

●島根縣下鳥類目錄第二回報告

松江 渡邊 盈 作報

第一回報告後當地に於て蒐集し得たる鳥類は大概左の如
し」島根縣下の鳥類と申すものゝ當松江近傍にて獲たる
もの多くして夫の隱岐國の如きは日本海の孤島なれば同
縣内と云ふものゝ度々渡航すると頗る困難にして小生は
昨年夏期漸く彼地へ參リアレコレと鳥類の探索に従事せ
しが其種類も少なく内地に見受けらるゝ尋常のもの多き
様に思はるゝなり乍去同地に滞在の用向は採集にあらず
れば島内深く入らずして歸途に就きたり何れ又々休暇の
際渡航を試ミ其上同島の鳥類を報告せんとす故に前後二
回に於て報告せし鳥類は當松江近郡に於て獲たるもの多
分なりと御諒知あらんとを希ふなり

我山陰道は鳥學上に於て全くの *Terra incognita* なりと

は第一回報告の際飯島博士の申されし所なり故に小生ハ
勉めて蒐集に従ふも元來鳥學上には其知識皆無のものな
れば未だ取り落しも多々ならんと思はるゝなり乍然當地
方の鳥類に富むとは事實なれば出來得べきだけ集めて讀
者諸賢の高教を仰がんとす

「石見セキレイ」に就ては當地に於て少しく鳥學に知識あ
るものは勿論石見の人々に出逢ふ毎に尋ねたるもまだ滿
足なる話を聞きたると一回もあし因て當地の教育雜誌
等へも出して貰ひ大に探索の方法を講せしが昨年春頃石
國志學(三瓶山の麓)の某小學校教員より其種の「セキ
レイ」は當地方に於て度々目撃せりとの報に接せしかど未
だ其實物を見ざれば何んたる事も申し難し
目錄中「多」とあるは澤山に獲らるゝもの、「稀」は稀れな
るもの、「中」は多寡中間に位するものと知るべし

目錄

(甲) 水禽類

(63) カイツブリ *Podiceps minutus*, Lath.

多

動物學雜誌第五拾四號

(79)	ヒクヒナ	Porzana erythrothorax, T & S.	多
(78)	クヒナ	Rallus indicus, Blyth.	多
(77)	アマサギ	A. coromandus, Bodd.	中
(76)	チウサギ	Ardea intermedia, Wagl.	中
(75)	ヨシゴ井	Botaurus sinensis, Gm.	多
(74)	ミゾゴ井	Nycticorax goisagi, Temm.	多
(73)	シヤクシギ	Numenius minor, T & S.	多
(72)	ヒシクヒ	Anser segetum serrirostris, Sw.	中
(71)	ハクチヨウ	Cygnus bewicki, Yarr.	稀
(70)	ウシ子コ	Larus crassirostris, V.	多
(69)	ウシスシメ	Brachyrhynchus antiquus, Gm.	多
(68)	イリシカモメ	Larus sp.	中
(67)	ホ・ジロガモ	Clangula glaucion, L.	稀
(66)	コガモ	Querquedula crecca, L.	多
(65)	マガモ	Anas boschas, L.	多
(64)	アビ	Colymbus septentrionalis, S.	中
(乙) 渉水類			
(80)	アオサギ	Ardea cinerea, L.	多
(丙) 猛禽類			
(81)	オホリシ	Haliaeetus albicilla, L.	最稀
(82)	ヲジロリシ	H. pelagicus, Pall.	稀
(83)	ハチクマ	Pernis apivorus, L.	中
(84)	マダラタカ	Cerchneis tinnunculus, L.	多
(85)	チゴハヤブサ	Hypotriorchis subbutco, L.	中
(86)	ツミ及ビヒョサイ	Accipiter gularis, T & S.	中
(87)	トラフヅク	Asio otus, L.	中
(丁) 燕雀類			
(88)	オナガドリ	Cyanopolum cyanus.	最稀
(89)	ハシブトカラス	Corvus macrorhynchos japonensis, Bp.	多
(90)	ハシボツカラス	Corvus corone, L.	多
(91)	チヨウセンガラス	Corvus corax, L. ?	中
(92)	ムクドリ	Sturnus cineraceus, Temm.	中
(93)	キンレンジャク	Ampelis garrulus.	中
(94)	ルリビタキ	Tarsiger cyanura, Pall.	多

- (95) ジャウビタキ *Ruticilla aurea*, Pall. 多
 (96) イワヒヨドリ *Monticola solitaria*, Mull. 中

(戌) 攀木類

- (97) カフコウドリ *Cuculus Canoras*, L. 中

以上の鳥類中「カイツブリ」は樂山と稱する處の川邊に澤山に棲ミ「ハクチョウ」は往日當央道湖に澤山に居りたるものなるが近來は著しく其數を減せりと云ふ「シヤクシギ」は當地にては單にシヤク鳥と稱し上饌に供せらる「オホロシ」は最も稀れにして漸く一羽丈を得たり其委細なる事は前已に報せり「オナガドリ」も稀れにして昨年冬漸く一羽を獲て獵師も其名を知らず「チョウセンガラス」は夫の「ワタリガラス」の事なるべし定まりたる期節中居りて其外には獲られず通常の「カラス」の如く尾翼の數同じきも上嘴の根基に毛なく且つ全軀小形なり「カフコウドリ」は當地に於て通常「ホト、ギス」と稱し其肉を藥用に供するが故に高價なり「キレンジャク」と「ヒレンジャク」とは共に獲らるゝも甲は割合に少し

●汗腺ノ進化 (承前)

石川 一 男

此他蛙類ノ皮膚腺ハ其分泌液ニヨリ斷ヘズ皮面ヲ濕潤ナラシメ皮膚ノ呼吸作用ヲ活潑ナラシムルノ用アリさりゑんしあ (Salientia) ニ於テ此作用ノ最モ顯著ナルヲ見ル可シ

此腺ハ又排泄作用ヲ有スルヤ否ヤ未タ正確ナラズト雖モ蛙類ニ於テハ此腺ハ非常ニ能ク發達シ其作用甚ダ活潑ニシテ外面ニ向テ直チニ其分泌液ヲ排泄スルヲ見レバ哺乳類ノ汗腺ト同等ナル方法ニ依リ軀中ノ老廢物ヲ排除スル者ナリト考エザルヲ得ザルナリ故ニ余ハ此腺ヲ以テ排泄作用ヲ補助スルモノナリトノ意味ニ於テ之ヲ排泄器ノ一ニ算エントス

既ニ蛙類ノ皮膚腺ニ付テハ其作用ヲ考察セリ故ニ之ヨリ更ニ腺ノ構造ヲ記載セントス